

団体名 小串カスミサンショウウオ保護・保存会 (下関市)

代表者名	新村 義昭	団体の目的 ・郷土・豊浦町小串地区の堂道川上流に棲息する「カスミサンショウウオ」を、生息環境も含めて、保護・保存するため最良の方策を策定する
構成員数	7人	
設立	H28年	
問い合わせ先	☎083-774-0504 (新村)	

事業名 準絶滅危惧種「カスミサンショウウオ」保護策の検討と自然環境教育

事業の目的 ・小串地区の堂道川上流に棲息する「カスミサンショウウオ」を、生息環境も含めて、保護・保存策を策定のための検討と併せて、自然環境教育として、小学校児童と生息観察を行う

事業の内容 ・孵化が始まる4月に、堂道川上流の棲息流域の兩岸の産卵場所を防虫網で三方を囲むように、防護柵を設置した
・小串小学校に、生息観察のための水槽を設置し、4年生児童7名による「カスミン調査隊」を結成した

事業の成果 ・天敵の侵入を防ぎ、孵化直後の幼生を保護するための防護柵が完成したので、今まで捕食されていた幼生の生存が期待できる
・児童は、カスミサンショウウオの世話や観察を熱心に行ったり、観察結果をまとめて発表するなど、理科教育の一端を担った

活動現場レポート！ カスミサンショウウオ保護・保存 〈H31.3.19/下関市立小串小学校・堂道川上流〉

この日は、会の活動現場を見学するため、現地を訪問しました。

まず、小串小学校を訪れ、サンショウウオの成体を観察するための観察水槽を見学しました。

苔で覆った石や落ち葉などで生息環境が再現されており、この時はその中に上手に隠れていたため、成体を確認することができませんでした。

また、別の水槽では、卵からかえったばかりの幼生が多く見られました。

案内していただいた校長先生のお話では、子どもたちが興味を持って生態を観察したり、世話をしたりしているということで、地元固有のこのような生物を子どもたちが観察できる活動に感謝されていました。

その後、堂道川の上流に移動し、天敵のゲンゴロウやアカハライモリから守る防護柵を見学しました。

毎年3月中旬には卵塊が確認されるとのことで、今年は訪問した前々日に確認でき、ほっとされていました。



小串小学校の観察水槽



防護柵が設置された産卵場所

